

飲食業

回答企業19企業

概況

～業況判断D I 値 大幅悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比52.6ポイント低下の5.3と悪化、前回調査予想値(5.3)と同様の結果となった。項目別では、売上・受注で42.1ポイント低下の10.5、売上数量も42.1ポイント低下の15.8、利益でも52.6ポイント低下の▲10.5と各項目で悪化した。

食事処、居酒屋共に集客は維持しているが米を筆頭に原材料高騰が続いており利益確保が難しい状況。価格転嫁した先や経費削減による対応等、今後とも収益確保が問題となる。

来期の見通し

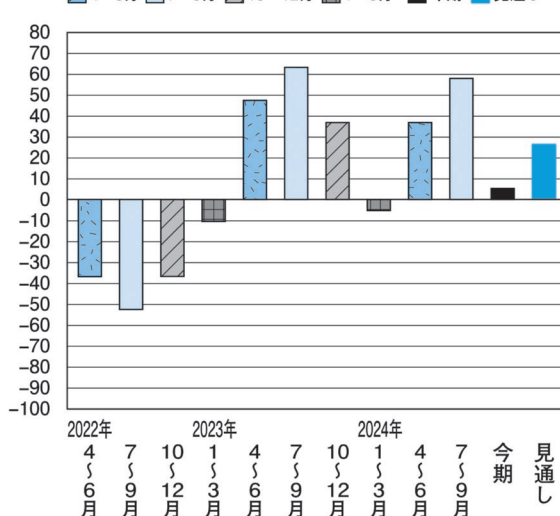
～総合的業況判断は改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比21.0ポイント上昇の26.3と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で10.6ポイント上昇の21.1、売上数量は横ばいの15.8、利益では5.2ポイント上昇の▲5.3と全項目で改善の見通しとなった。

年始や年度末はイベントが控えており業況の改善を見込む声が多い。しかしながら、原材料高騰は続く見通しから収益確保に向けた対応に苦慮している。

業況判断D I 値の推移



不動産業

回答企業9企業

概況

～業況判断D I 値 悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比11.1ポイント上昇の▲22.2と改善、前回調査予想値(▲55.6)は大きく上回る結果となった。

項目別では、売上・受注で11.1ポイント低下の▲22.2、売上数量は22.2ポイント低下の▲22.2、利益でも11.1ポイント低下の▲22.2と悪化となった。

冬季間は仲介業務低調となるため売上は減少。管理業務については例年通りで推移している。物件価格の高騰もあり利益減少の先も多い。

来期の見通し

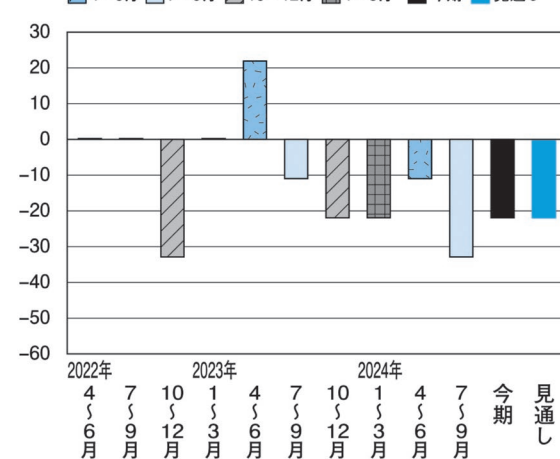
～総合的業況は横這いの見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比横ばいの▲22.2の見通しである。項目別では売上・受注で11.1ポイント上昇の▲11.1、売上数量が横ばいの▲22.2、利益では11.1ポイント上昇の▲11.1の見通しとなった。

季節的には閑散期となるが、異動期を控え物件情報収集などに傾注し、広告・宣伝を強化し3月以降の集客に努めている。

業況判断D I 値の推移



調査要領

- 調査時期 2024年12月下旬
- 調査地域 当金庫営業区域7市町村(弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村)
- 調査方法 上記地域内290社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
- 分析方法 各質問事項で、変化なしとした回答部分を除いて、「増加(上昇)」 「やや増加(やや上昇)」 したとする回答と、「減少(下降)」 「やや減少(やや下降)」 したとする回答の構成比との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。